

# 神大の留学生に聞く⑤——ドイツ

このインタビューは前期定期試験も終わり、いよいよ夏休みという7月31日に行われました。今回、私たちのインタビューに協力してくれたのは、留学課にインターシップで来ていたドイツ人のファイナさんです。この日がインターシップの最終日でした。当初、ファイナさんは日本語があまりわからないということで、英語でのインタビューということになっていました。そのような訳で、お互いに間違っていた解釈がおきないように、通訳の学生をお願いしていました。しかし、実際にはお互い自己紹介が終わり、インタビューに入ると、ファイナさんは一生懸命日本語で応えてくれました。その日本語は十分に理解できるもので、インタビューのほとんどが日本語で行われました。



英語英文学科4年 木村 有美・神成 有己

—日本に興味を持ったきっかけは何ですか？

高校生の時にオーストラリアに留学していました。そこには世界各地から学生が来ていて、その中には多くの日本人がいました。その日本人の学生と時々話をしたり、一緒にご飯を食べたりしていて、とても楽しいと思いました。また、日本語の授業もあり、その際には日本人にわからないところを教えてもらいました。そのような経験から、新しい文化だなと感じ、今の中はグローバルゼーションなので、日本語を勉強したいと思いました。

—では、それ以降どのように日本語を勉強しましたか？

留学から戻り、ドイツの大学に入りました。授業で学ぶ言語の選択を日本語にしました。日本語の授業は漢字が難しいと思いましたが、先

生も面白くて楽しいです。

—オーストラリアに留学したと言っていました  
が、他に行ったことがある国はありますか？

ヨーロッパのいろんな国に行きましたし、スペインやフランスにも留学したことがあります。学生は車を借りて、よく他のヨーロッパの国に行きます。大勢で借りれば安いし、5、6時間で着きます。ただ、ヨーロッパは島国ではないし、EUの関係で簡単に行けるので、あまり外国という感じがしません。多分、東京にいる人が大阪に行くような感覚です（笑）

—なるほど。では、日本に来る前は日本人に対して、どのようなイメージを持っていましたか？

ステレオタイプな考えで日本人はシャイだと思っていました。あと、従順でいつも気持ちを隠すというイメージも持っていました。

—実際に日本にきてみて、どのように思いましたか？

思っていた通りの部分が多くありました。例えば、シャイで気持ちを隠すこと。嬉しい時にあまり嬉しいというそぶりを見せませんよね。

従順だとも思いました。

あと、日本人は学校や会社などでグループで行動していることが多いですね。ドイツ人は個人個人で行動することが多いし、どのグループに属するかということや皆、気にしません。だから、私は友達が出来るか不安に思いました。でも、皆、親切で仲良くしてくれました。街で道を尋ねた時も一生懸命教えてくれましたし、出来た友達も明るくて元気なので、この部分には日本人に対する印象が変わりました。

—それでは、日本の大学、あるいは大学生を見ていてドイツと同じだと思う点、あるいは違うと思う点がありますか？

先ほども言いましたが、グループで行動するという点が違ってきます。

あとは授業の様子も違います。私は神奈川大学のドイツ語の授業の手伝いをしたことがあるのですが、日本の大学生は受け身的ですね。先生が一人の生徒に質問しても答えが返ってこなかったり、問題を皆で話し合っていていました。ドイツの大学生は自発的に質問したり、答えや意見を述べたりするので、授業中はいろんな声飛び交います。他にはアルバイトと居住環境です。日本の大学生はほとんどアルバイト

をしているようですが、ドイツの大学生は半分以上はアルバイトをしていません。授業が難しく、忙しい学生はアルバイトをしないからです。また、ほとんどのドイツの学生は、大学の時期は自由になれて嬉しいと思いい、親元を離れて一人暮らしや何人かでルームシェアをします。なので、日本の学生が実家暮らしをしていることや遠いところから大学に通っていると聞いて、驚きました。ドイツの学生は通学時間が30分でも長いと感じます（笑）

—では、今度は就職の話をお願いします。日本の就職活動は企業説明会に行き、筆記試験を受け、グループディスカッション、集団面接、個人面接と何度も面接を受けてやっと内定をもらうことが出来ます。ドイツにおける就職活動も日本と同じですか？

まず、就職活動の時期というのが日本とは違います。日本は4月に皆が同時に入社するために1年半も前から就職活動をするんですね？ドイツでは始まりは9月です。でも、6月に始まる会社もあるので、皆が一緒の時期に行うというわけではないんです。

働くには会社の情報をインターネットや新聞から探して、履歴書を送ります。そのあとはア

セサメントセンターというところで、1日筆記試験を受け、グループディスカッション、面接を行います。だから、選考は1日で終わります。

試験や面接も大事ですが、採用に重要視されるのはインターンシップと語学です。語学も英語はドイツでは幼い頃から学ぶので、英語以外の言語を習得していることが重要です。良い仕事に就くには、ドイツ語と英語とあと1つか2つの言語が必要になります。会社に入社したら、3カ月間は研修期間があります。

また、ドイツでは転職が多いです。日本では新卒で、一つの会社に長く勤めるのが良いと思われるようですが、ドイツでは3年ごとくらいで会社を変えたりします。それは、いろいろな経験をすることが重要だと考えられているし、会社の方も経験のある人を歓迎します。

—ドイツで日本のイメージとして連想されるものは何ですか？また、そちらで流行っている日本の文化はありますか？

そうですね……食べ物なら、スシですね。日本の料理といえばスシが連想されるので、ドイツにいる友達が私にメールで「毎日、スシ食べてる？」と送ってきます（笑）。ドイツにもスシの店がありますが、中国人がやっていることが

多いんです。

また、ハリウッドの映画「SATURU」がドイツの映画館で長く上映されていたので、芸者。あとはもちろん歴史の授業で習うので、原子力爆弾も日本を連想させます。スポーツでは相撲と柔道が有名です。空手や剣道もありますが、柔道の方が知られています。

車のイメージも強く、トヨタやスズキが有名です。他には日本というよりも、日本人観光客ですが、よく写真を撮る、ブランド品が好きというイメージを持っています。以前、ベルリンやパリのルイ・ヴィトンのお店に日本人観光客がたくさんいるのを見て、とても驚きました。流行っているのは、日本のアニメや漫画です。ドイツの子供たちはドラゴンボールやポケモンをよく知っています。

—実は私（木村）は6年ほど前にドイツに行つたことがあるのですが、その時に日本の漫画やアニメを多く目にしました。でも、遅れてドイツに入っているの、日本人から見ると少し古いものばかりに感じました。今はその時に比べて、より多くの漫画やアニメが、より早くドイツに入るようになりましたか？

私は漫画やアニメがあまり好きではないの

で、詳しくはわかりませんが……今ドイツではコスプレが流行っています。多分、日本では大分前からあるものだと思いますが、ドイツではとても新しいものです。日本で新しい漫画が出て、それがドイツに入ってくるのは2、3年後くらいだと思います。ですが、日本好きな人が、日本に行つて漫画やアニメのものを買ってくることもあり、インターネットで動画を見たり、買い物も出来るので、以前よりは多くの漫画やアニメがドイツに早く入ってきているように思います。

—ドイツに来たら、是非訪れるべきお勧めスポットを教えてください。

ベルリンの壁の跡地です。東と西を隔てた場所に今はいろいろなアートが描かれています。ドイツを訪れるのにおすすめの時期は、少し寒いですが、11月から12月にかけてです。この時期にはクリスマス市場が開催されます。温かいワインを飲んで皆で談笑するのは楽しいですよ。ドイツのほとんどの場所やっています。南ドイツの方がイルミネーションは綺麗だと思います。

—イベントといえば、ドイツでは10月にオクト

「パーフェクトがありますよね。僕（神成）は10月に横浜で行われたオクトーバーフェストに行きました。少しお酒が高かったように思いました。本場ドイツで行われるオクトーバーフェストはどうですか？」

悪くはありませんが、そんなにおすすりません。もちろんお酒を飲んで皆で楽しむのですが、歴史的な文化背景があるという訳ではありません。ただ、ドイツでは男の人が皮のパンツをはいて、女の人が緑色のワンピースを着るといふ南ドイツの伝統的な服装が見られるかもしれません。お酒の値段は日本だから高かったでしょう。ドイツではビールは安いですよ。

— 漠然とした質問ですが、日本にきて良かったですか？

さつきも話しましたが、日本人に対してステレオタイプを持っていたので、最初は友達ができるか不安で怖かったです。でも、最初に一緒にあった男の子が留学経験もある子だったように、「Hi, how are you?」などと元気に声をかけてくれたのには驚きました。アメリカ人であれば普通のことですが、日本人だったのすごくびっくりしました。そのあとで大学内で会う人に「どこから来たの？」などよく話しかけられ

ました。フランスやスペインで歩いている時はしゃべらない限り、見た目だけでは外国人なのかわかりませんが、日本では私は目立ったのでしょうか。そういった経験や友達が出来たことは良かったです。

あとは川のような雨が実際に見れたことも良かったですね。いっぱい雨が降るところはテレビの中でしか見たことがなかったんです。

— では、ドイツではあんまり雨は降らないんですか？

そうですね、そんなに降りません。梅雨なんてありませんし、夏に降る時もパラパラと30分くらい降るだけです。時には洪水もあります。梅雨ほどではありませんね。

— ファイナさんにとって異文化に触れるということはどういう事だと思えますか？

日本語で上手く話すのは難しいですが……異文化に触れること、つまりそういった経験というのには育つことの基礎だと思います。人間のベースで、赤ちゃんが育つのと一緒です。赤ちゃんは食べ物を受けたり、話しかけたり、何かを与えないとまったく成長しません。異文化も同じで、それを知り、体験することで人間は成長

出来るのだと思います。本でどれだけその文化について勉強してもダメです。例えば、数学は本で勉強したらそれでOKです。でも、文化は実際に触れることが大事です。その文化に触れた時に初めて、本の内容が正しかったのかどうかわかります。自分の育った環境でずっと過ごすことは悪くありません。でも、自分の生活とはまったく関係のない文化を知った時に自分の文化と全然違うことを知ります。また、文化は交換しなければ、発達しません。新しい文化を知って、自分の文化も育っていくのです。そのためには、新しい文化を知ることが大事ですが、自分の文化をきちんと知る必要があります。私は自国、ドイツの文化も勉強しています。そうしてちゃんと知っていれば、新しい文化を知った時に、何が違う？ どうして違う？ どこが良い？ ということがわかります。

— インタビュが終了したら、どうする予定ですか？

インタビューは今日で終了しますが、あと2週間は日本にいます。今までは留学課を手伝っていたので、残りの日は観光をしたいです。まず、博物館に行きたいですね。あとは富士山にも登りたいです。これは来週行く予定なので、

とても楽しみにしています。他には京都と大阪にも行きたいです。日本の文化を見たいです。

観光も終わって、ドイツに戻ったらまた学業を再開します。今はインターンシップのために休みですが、まだ大学生なので卒業しなければなりません。

—では、大学を卒業したあと就きたい職業や夢は何ですか？

先生になりたいです。ドイツでは10歳の時から学力別に3つの学校に分かれています。その子供の成績をみて、この子はこの学校という風に決めます。もし学力の低い学校に入ったら、将来大学に入りたいと思っても、なかなか難しい。だから、そういった子供に語学や数学などを教えたいです。

インタビューが終わった後も私たちはファイナさんと少し話をしました。今度はファイナさんが私たちに留学経験はあるか？学校ではどのようなことを習っているのか？というようなことを聞き、それに答えて話が盛り上がりました。また、趣味の話にもなり、ファイナさんがフランス文学が好きなこと、ロッククライミングをすることも知りました。

最初はお互いに緊張していて、ぎこちなかったのですが、次第に打ち解けて楽しい時間を過ごすことが出来ました。それはファイナさんの今までの経験と日本語を話すことが出来たこと、そして私たちの今までの経験と英語英文学科で学んできたこと、第二外国語としてドイツ語をとっていたことがこのコミュニケーションを有意義なものとしたのだと思います。このことはインタビューの中でファイナさんが「異文化に触れるとはどういうことか」というのを体現していると思います。私は話の中で、「ドイツに行った時にレストランのトイレでお金を払う(チップ)ことに驚いた」と言ったら、ファイナさんは逆に日本は無料で驚いたと言っていました。これも自分が生まれ育った環境にずっと身を置いていたら、知りえないことです。他にも、ドイツ語の授業でドイツの学生は親から自立したがるので、一人暮らしを始めるということを学びました。それも今までは本の中だけで知った知識でしたが、ファイナさんのインタビューから、それがより確実な知識となりました。

「異文化に触れる」ということはただ机の上で本を読んで知識を得るものでもなければ、知

識も何もなくてただ外国に行くことでもない。知識と経験を積み重ねていって、人とコミュニケーションをとって初めて、異文化に触れるという一連の流れが完成するように思いました。今回のインタビューから、そのことを強く感じましたし、何より「異文化に触れる」ということは楽しい。良い、悪いではなく、その存在を知ることとは純粋に面白いです。時々、異文化を理解するということとはそれを認めることだと思いがいます。理解と納得は違います。私は異文化を良いものだと言いたいのではなく、せっかくなので「異文化なのだから、とまどったり、反発したり、受け入れられたり……大いに楽しんでみれば良いのだと思います。

最後に今回のインタビューの協力してくれたファイナさん、本当にありがとうございました。これから活躍を応援しています。

